

- さい【防災】

【名】風水害・地震などの災害を防ぐこと。

「-の日」「-対策」「-情報」「自主-組織」

「まさかあの川が氾濫するとは」「まさか大地震がやってくるとは」被災地域で多く聞かれた「まさか」という言葉。水害や地震など自然災害は決して他人事ではありません。自分に合った一つ一つの小さな備えが、自らを助け、大切な人を助けることにつながります。いざというときに「まさか」と思うことがないよう、できることから取り組んでいきましょう。災害発生時、もし真冬だったら？真夜中だったら？ひとりだったら？家族といたら？あなたはどのように対応しますか？

圏防災対策係Tel. 74-8765



昭和56年の大水害の様子。
川の氾濫を防ごうと土のうを積み消防団員たち。

砂川市は札幌市と旭川市のほぼ中央に位置し、西は石狩川を挟んで新十津川町に、北は空知川を挟んで滝川市に接している。東部境界付近は海拔237mで西に行くに従って低くなっている。

空知川、石狩川の両大川川の合流点に砂川市があるため、災害の多くが水害で占められ、古くから幾多の大水害が記録されている。

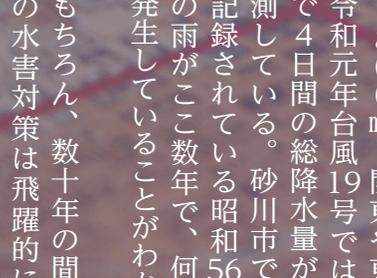
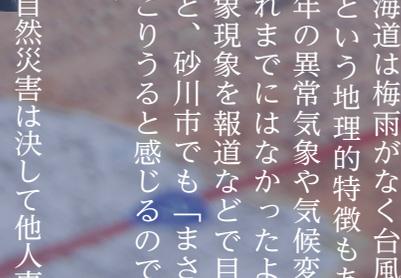
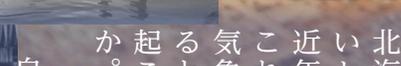
左の写真は昭和56年8月、前線と台風12号の集中豪雨により全道各地で記録的な降水量となり、大きな被害をもたらした大水害の様子である。市内の中心部を横断するパンケ歌志内川の水位が氾濫寸前まで上昇している中、消防団員たちの不眠不休の活動により土のうを積み上げている様子が収められている。

砂川市の過去の災害

- S36.7.24 ~ 26 水害 流失2戸、半壊17戸、床上浸水1,047戸、床下浸水260戸
- S37.8.3 ~ 4 水害 死者1名、重傷2名、全壊1戸、半壊9戸、床上浸水1,252戸、床下浸水368戸
- S41.8.18 ~ 19 水害 床上浸水51戸、床下浸水59戸
- S50.8.23 水害 流失8戸、全壊1戸、半壊2戸、床上浸水274戸、床下浸水141戸
- S50.9.7 水害 床上浸水8戸、床下浸水86戸
- S56.8.4 ~ 5 水害 床上浸水172戸、床下浸水1,000戸
- S63.8.25 ~ 26 水害 床上浸水31戸、床下浸水80戸
- H4.9.25 ~ 26 水害 床上浸水1戸、床下浸水3戸
- H16.9.8 強風 負傷者3人、住家一部破損88戸、ビニールハウス破損845件
- H22.8.23 ~ 24 水害 床下浸水3戸、農作物被害1.3ha
- H23.9.2 ~ 7 水害 床下浸水1戸、農作物被害15.7ha
- H28.8.20 ~ 21 水害 床上浸水4戸、床下浸水33戸
- H30.9.6 ~ 9.7 地震 市内全域停電(最大33時間)、物流途絶

ぼう

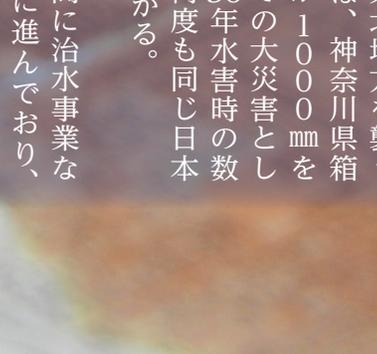
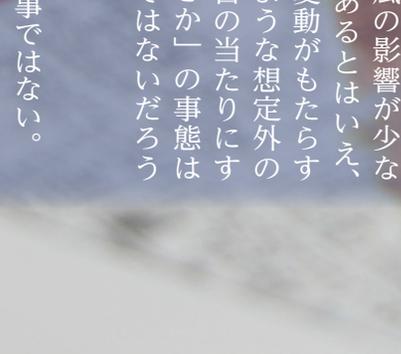
石狩、空知川はんらん



このときの砂川市における4日間の総降水量は366mmだった。これに対し、西日本で発生した平成30年7月豪雨では、四国地方で11日間の総降水量が1800mm、関東や東北地方を襲った令和元年台風19号では、神奈川県箱根で4日間の総降水量が1000mmを観測している。砂川市での大災害として記録されている昭和56年水害時の数倍の雨がここ数年で、何度も同じ日本で発生していることがわかる。

もちろん、数十年の間に治水事業などの水害対策は飛躍的に進んでおり、北海道は梅雨がなく台風の影響が少ないという地理的特徴もあるとはいえ、近年の異常気象や気候変動がもたらすこれまではなかったような想定外の気象現象を報道などで目の当たりにすると、砂川市でも「まさか」の事態は起こりうると感じるのではないだろうか。

自然災害は決して他人事ではない。

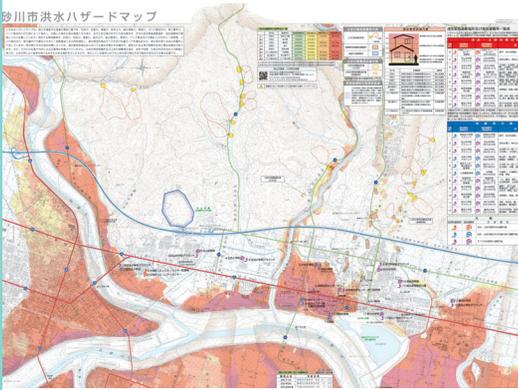


災害への備え

はできていますか？

◆備えの第一歩

日本では毎年のように大きな自然災害が発生しており、いつ砂川市で発生してもおかしくありません。特に、水害や地震への対策は必要です。災害が起こってしまった場合、自分ならどのように行動するかすぐに想像できますか？



砂川市洪水ハザードマップ

洪水ハザードマップは、国土交通省や北海道の資料に基づき、石狩川、空知川、徳富川、奈井江川、産化美唄川、美唄川、パンケ歌志内川、奈江豊平川、パンケ歌志内川が大雨によって増水し、氾濫した場合の浸水範囲とその深さ、および土砂災害のおそれのある箇所を、市内の指定緊急避難場所・指定避難所の情報とともに記載しています。そのほかにも、災害に対するさまざまな知識や対策などを掲載しています。市ホームページでご確認ください。



「砂川市洪水ハザードマップ」では、水害が起こったときに注意を要する場所を示しています。避難場所も記載されているので、自分の住んでいる地域にどんなリスクがあるのか、どこに、どの経路で避難をするのか

など確認しておくことが大切です。水害と地震とは避難場所が異なる地域もあり、それらも記載されています。また、避難する際には、電気のブレーカーを落したりガスの元栓を閉めるなど、火災などの二次災害を起こさないようにすることも必要ですので、事前に操作方法の確認もしておきましょう。家族がいる場合は、外出中での離れ離れになってしまったときの安否確認の方法や集合場所なども決めておきましょう。

◆コミュニケーションという備え

6400人以上の死者・行方不明者を出した平成7年1月の阪神・淡路大震災では、地震によって倒壊した建物から救出され生き延びることができた人の約8割が、家族や近所の住民などによって救出されており、消防や警察、自衛隊によって救出された人はわずか2割であるという調査結果があります。その理由は、自然災害発生時は行政も大きな被害を受けてしまい、全ての現場に行政の救助隊が速やかに到着することは難しいからです。



町内会による地域防災訓練時の様子

そのような場合、発災後しばらくの間は、行政の支援を受けることなく、地域住民が自発的に避難行動をとり、地域コミュニティで助け合って、救助活動、避難誘導、避難所運営などを行うことが必要になります。そして、災害からの復興にあたっては、地域住民一人ひとりや地域コミュニティ全体が主体的にかかわることが「よりよい復興」にとって不可欠であることが明らかとなっています。また、近所の人たちが互いに協力し合い、地域の防災対策を効果的に行うための自主防災組織を設立するケースも増えており、砂川市では13町内会で設立されています。

新石山団地	自主防災組織のある町内会
緑ヶ丘	
豊栄	
石山団地	
月見丘	
新晴見	
共親	
東雲	
あかね団地	
宮川	
新町	
千歳第1	
北光団地	

被災者から学ぶ

(新潟県三条市の豪雨)

住民みんなが顔見知り

スムーズにいった避難行動

(60代男性)

私は三条市の中山間部にある世帯数26戸の小さな集落に暮らしています。毎冬、雪がかなり積もる以外は自然豊かでよいところ。近くに川が流れています。底が深いので、これまで洪水など全く無縁と思って暮らしてきました。

しかし、2011年7月29日は、雨の降り方が異常でした。ただならぬ気配を感じた私は、自治会長とともに集落内の見回りを始めました。避難勧告が出たのはその直後です。高齢者などは避難に時間がかかることを自覚しており、率先して避難準備を始めました。住民皆が顔見知り、だれが避難困難者なのかをお互いに知っており、情報

知識と物と心の準備を

◆コロナ禍でも避難すべき？

災害が起こり、いざ避難!!となったとき、新型コロナウイルス感染症のリスクがある密閉空間の避難所に、すぐに行くことを考えますか。それとも、迷ってしまいますか。

避難とは、「難」を「避」けることです。すでに安全が確保されている場所にいる人は避難所に行く必要はありません。また、避難所が過密状態となることを防ぐため、安全が確保できる親戚や知人宅などへの避難も有効ですので、事前に話し合いをしておくが良いでしょう。

災害が起こったときは、基本的に命を守ることが最優先です。ので、コロナ禍であっても、危険な場所から迷わず避難しましょう。

◆備蓄品 持っていますか？

平成30年の北海道胆振東部地震による大規模な停電により物流が途絶えたことはまだ記憶に新しく、コンビニやスーパーから、水、食料、生活用品などがなくなりました。このような事態に備え、普段から災害時でも自分の力で生活できるように「備蓄」が必要です。家族全員が最低3日、できれば1週間過ごすことができる量を目安に備蓄しましょう。普段から少し多めに食材や必需品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料や必需品を家に備蓄しておく「ローリングストック」という方法がおすすです。乳幼児や高齢者、病人のいる家庭では、災害時にすぐ手に入りやすいミルクや常備薬などを多めに用意しておくことも大切です。避難するときに必要な持ち物は、それぞれの家庭で事前に考えておきましょう。

非常用持ち出し備品

非常用持ち出し備品は、それぞれ自分にとって必要な物を考え、準備することが重要です。それらをリュックなどに入れ、玄関の近くや寝室、車の中、物置などに配置しておけばすぐに持ち出すことができます。

- | | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 現金 | <input type="checkbox"/> ライター | <input type="checkbox"/> マスク |
| <input type="checkbox"/> 貯金通帳 | <input type="checkbox"/> ロウソク | <input type="checkbox"/> 消毒液 |
| <input type="checkbox"/> 印鑑 | <input type="checkbox"/> 携帯電話 | <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ |
| <input type="checkbox"/> 毛布 | <input type="checkbox"/> 携帯電話用充電器 | <input type="checkbox"/> 歯ブラシ |
| <input type="checkbox"/> 衣類 | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> 救急箱 |
| <input type="checkbox"/> 食品 | <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ | <input type="checkbox"/> 携帯トイレ |
| <input type="checkbox"/> 水 | <input type="checkbox"/> 乾電池 | など |
| <input type="checkbox"/> 卓上コンロ | <input type="checkbox"/> ヘルメット | |
| <input type="checkbox"/> ガスボンベ | <input type="checkbox"/> 軍手 | |

交換ができたのは小さな集落ならではだったと思います。作業も順序立てて、協力し合っていました。

三条市指定の避難所もあったのですが、私たちは集落の集会所を最終的な避難所に独自に指定しました。市指定の避難所は少し離れた場所にあるので、高齢者などのことを考えると移動は困難と判断したのです。

判断が速かったため、避難後は余力のある者が力を合わせて、まず道路を確保し、交通整理を行いました。隣の集落に救出活動に出かける余裕もありました。これだけスムーズに行動ができたのは、日ごろの近所づきあいと統制のとれた自治会活動のためものと思っています。(内閣府ホームページ 一日前プロジェクト)